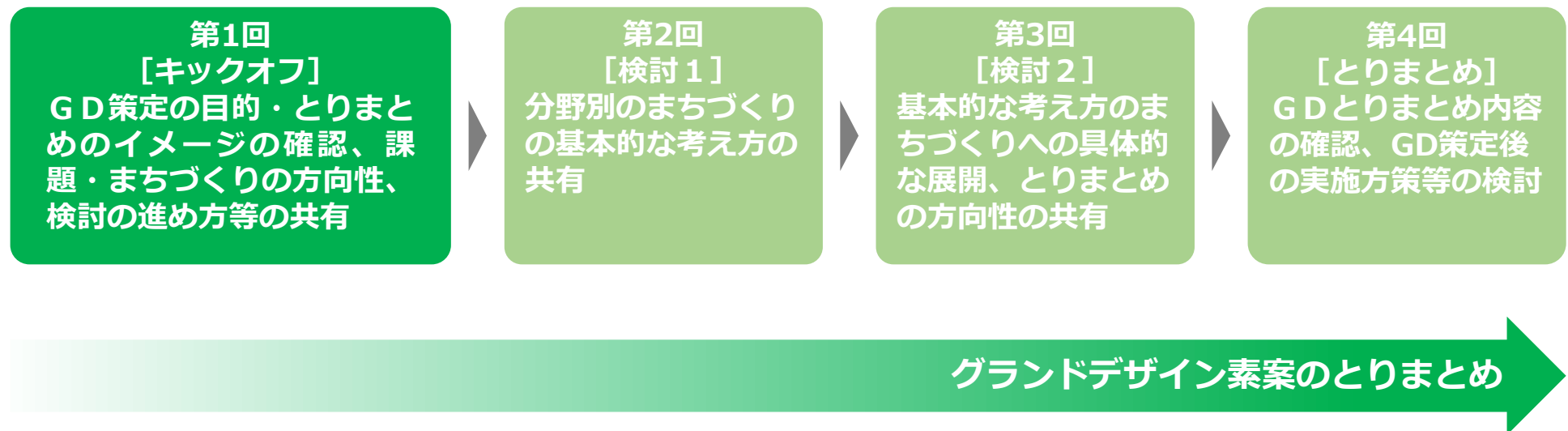


第1回 王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定検討会

平成28年4月25日



王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定検討会
計4回の開催を予定



1. はじめに

1-1	グランドデザインとは	3
1-2	王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定の目的	4
1-3	対象区域	7
1-4	王子駅周辺まちづくりグランドデザインの位置づけ	8
1-5	王子駅周辺まちづくりグランドデザインとりまとめのイメージ	9

2. グランドデザインの検討

2-1	現況・課題	16
2-2	コンセプト	17
2-3	基本方針	18
2-4	分野別の基本的な考え方	19
2-5	「中間まとめ」を参考に議論を具体化	25
2-6	まちづくりスケジュール案	26

3. 今後の検討の進め方

3-1	検討体制	28
3-2	検討スケジュール	29
3-3	検討会・検討部会での検討テーマ	30

1-1 グランドデザインとは

まちづくりグランドデザインとは

「部分最適の集合体は全体最適にはならない」
(Peter Ferdinand Drucker、1909～2005)

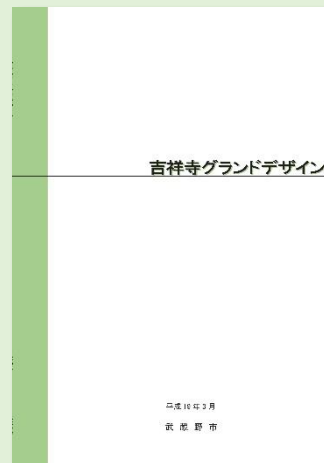
まちづくりは、共通の展望や思想を区民・民間事業者・行政が共有し、
公民協働で進めていくことが重要です。そこで、道路や駅前広場など都市
基盤整備や個別街区の開発等を進める上での、共通の目標となるまちづく
りコンセプトのほか、整備に係る基本的な考え方などを整理して示すもの
が、「まちづくりグランドデザイン」です。

他自治体の例

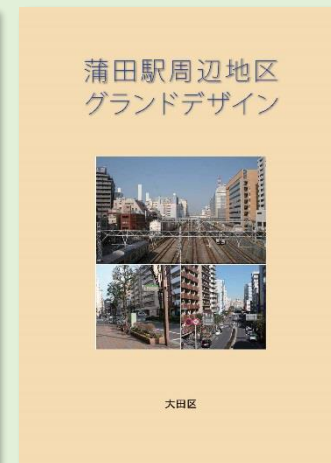
(出典：各自治体HP)



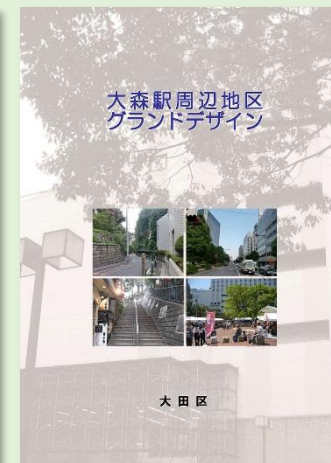
墨田区, H18/9



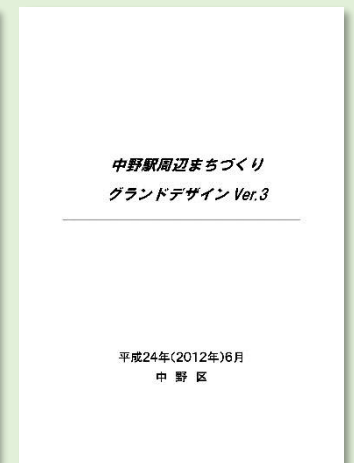
武蔵野市, H19/3



大田区, H22/3



大田区, H23/3



中野区, H24/6

1-2 王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定の目的

王子駅周辺の優位性

- ・ JRや地下鉄、都電、バス、首都高速道路などが集まる交通の要衝
- ・ 飛鳥山公園、音無親水公園、王子神社など、江戸期以降の歴史および自然資産が駅に隣接
- ・ 製紙業をはじめとして日本の近代産業を牽引してきた歴史的価値
- ・ 博物館・北とぴあ等の文化・交流施設や、多様な物販・飲食店等が集積

王子駅周辺の抱える課題

- ・ 駅前商業ビルなど、更新時期を迎えており、駅前の顔としての整備が求められている
- ・ 駅周辺において、周辺からのアクセスや各交通機関間の乗換えなどの利便性向上が求められている
- ・ 自動車・歩行者が北口周辺に集中し、スペース不足から混雑が生まれている
- ・ 木造密集市街地（堀船地区周辺）の防災性向上や、石神井川の治水対策強化等が求められている



1-2 王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定の目的

王子駅周辺まちづくりの機会（「いま」のタイミングでグランドデザイン策定に取り組む背景と意義）

■ 地域における動き

- ・ 北区の新庁舎建設検討（H24.3、新庁舎建設基本構想を公表）
→北区－印刷局間で「国立印刷局王子工場用地の一部取得に関する覚書」を締結（H27.8）
- ・ J R 北王子貨物線の廃線（H26.7）
- ・ 国家戦略特区を活用したまちづくりの申請（H26.8）
- ・ 首都高速道路王子南出入口の開通（H27.3）
- ・ 過去における駅前用地の土地利用の転換や機能更新等の検討

■ 社会的な趨勢

- ・ 世界的な都市間競争に勝ち抜くため、国からの都市再生プロジェクトを通じた東京の魅力向上への取り組み要請の高まり
- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機とする訪日外国人の増加を背景とした、都市観光ビジネス等の盛り上がりや、「日本らしさ」などの価値の再発見・再評価気運
- ・ I C Tの発達や産業構造の転換の進行による、ワークスタイル・ライフスタイルのあり方の転換
- ・ 自然・環境の保護や防災への取り組み意識の高まり



1-2 王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定の目的

王子駅周辺の優位性

王子駅周辺の抱える課題

王子駅周辺まちづくりの機会

グランドデザイン策定の目的

地域の課題を解決し、街の価値を更に高めていくためには、**区民・地権者・民間事業者・行政など各関係主体が緊密に協力、連携**してまちづくりに取り組むことが重要

そのための共通指針としてグランドデザインを策定し、**直面する地区の課題やまちづくりの展望、整備に係る基本的な考え方、課題解決に向けた取り組みやその必要性等について共有**を図る

1-3 対象区域

対象とする区域は、建物更新にあわせて道路整備や防災対策などが求められる範囲を主とし、道路、鉄道、飛鳥山公園などを境とした下記の範囲と設定します。

グランドデザインの対象区域

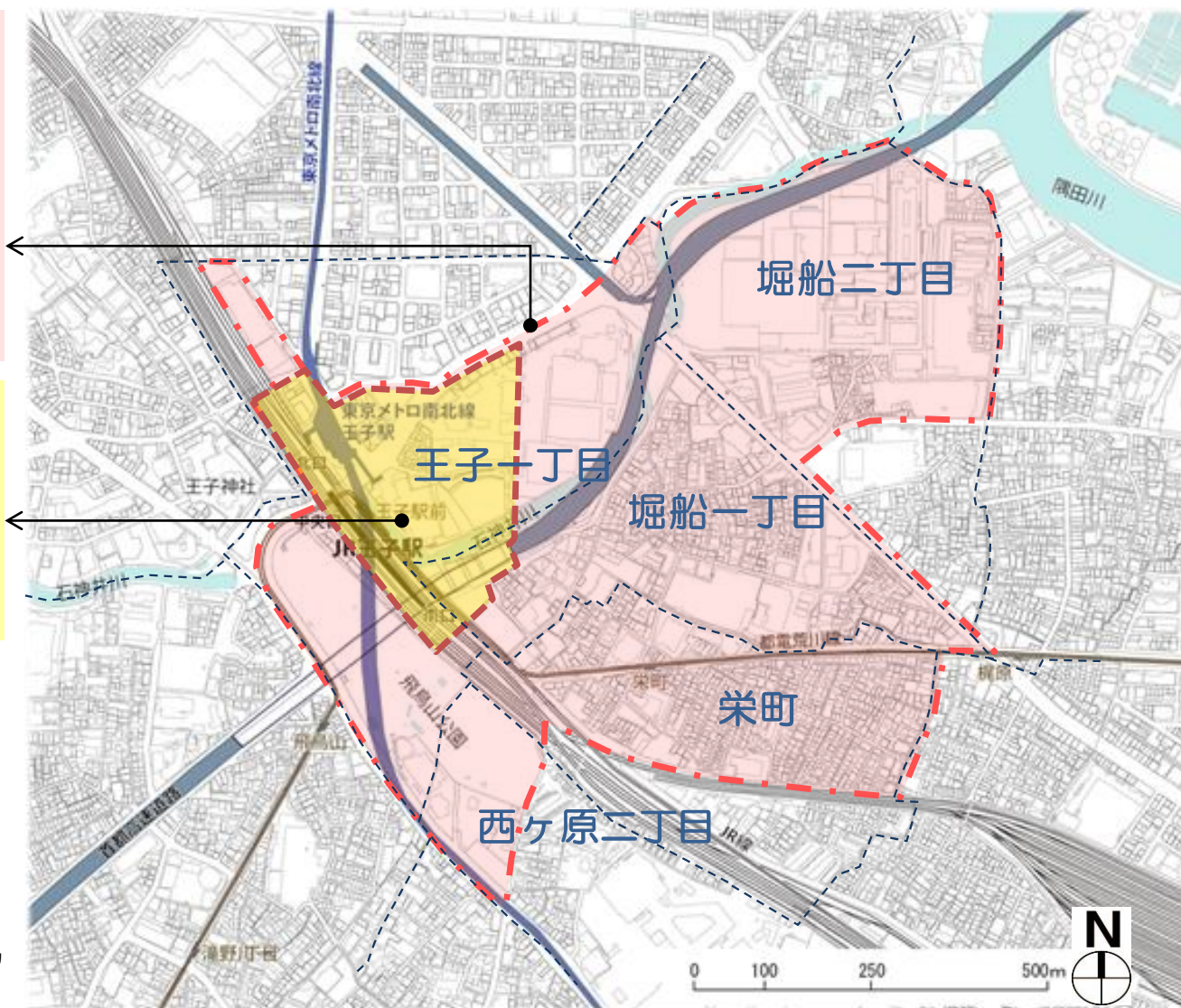
飛鳥山公園、JR王子駅、及び都電荒川線周辺の木造密集市街地を含む王子一丁目（一部）、堀船一丁目、堀船二丁目（一部）、栄町（一部）、西ヶ原二丁目（飛鳥山公園）の約70haの区域。

⇒以降「**駅周辺地域**」

重点的に検討を行う区域

交通拠点の充実強化や、大規模敷地の開発による都市機能の更新などにあわせて、拠点の形成が期待される区域。

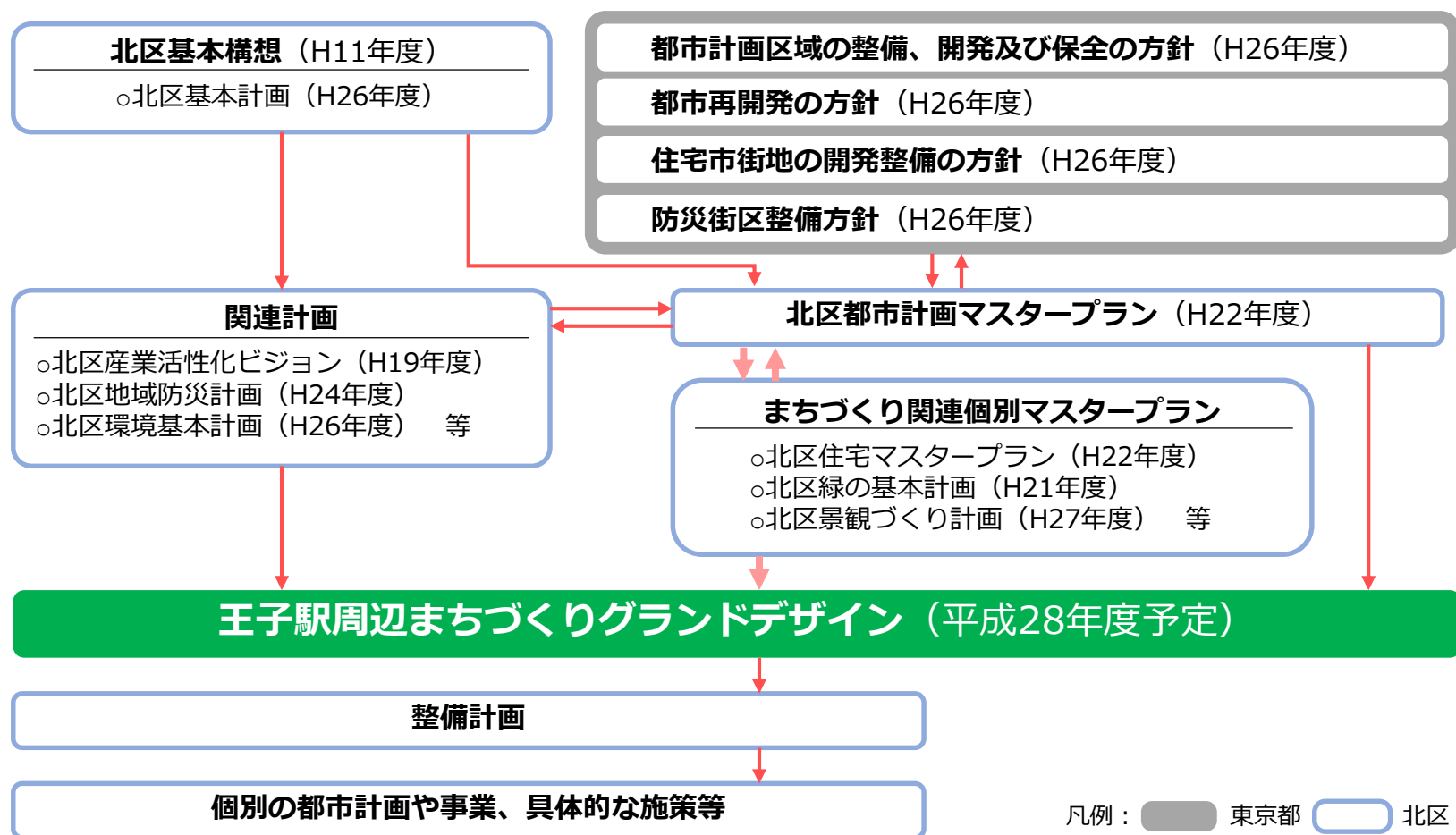
⇒以降「**拠点地区**」



※なお対象区域については、今後の関係機関との協議の進展などにより、変更となる場合があります。

1-4 王子駅周辺まちづくりグランドデザインの位置づけ

- 東京都の上位計画、北区基本構想、北区都市計画マスタープラン、その他まちづくり関連の個別マスタープラン等を上位計画として、それらとの整合を図っていく。
- グランドデザインの策定後、関係機関等と協議の上で、**整備方針を具体化していくための整備計画**を策定し、まちづくりの実現に向けて、個別の都市計画や各種事業、具体的な施策などに取り組む。



1-5 王子駅周辺まちづくりグランドデザインとりまとめのイメージ

～まちの将来像～

「にぎわいあふれる多文化都市、
誰もが安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田」

コンセプト



基本方針 1 商業・にぎわい・交流の創出

基本方針

基本方針 2 都市機能の向上

基本方針 3 まちの快適性の確保

エリア別の取り組み方向性 →アクションプラン

基本方針 1. 商業・にぎわい・交流の創出 【アクションプラン】

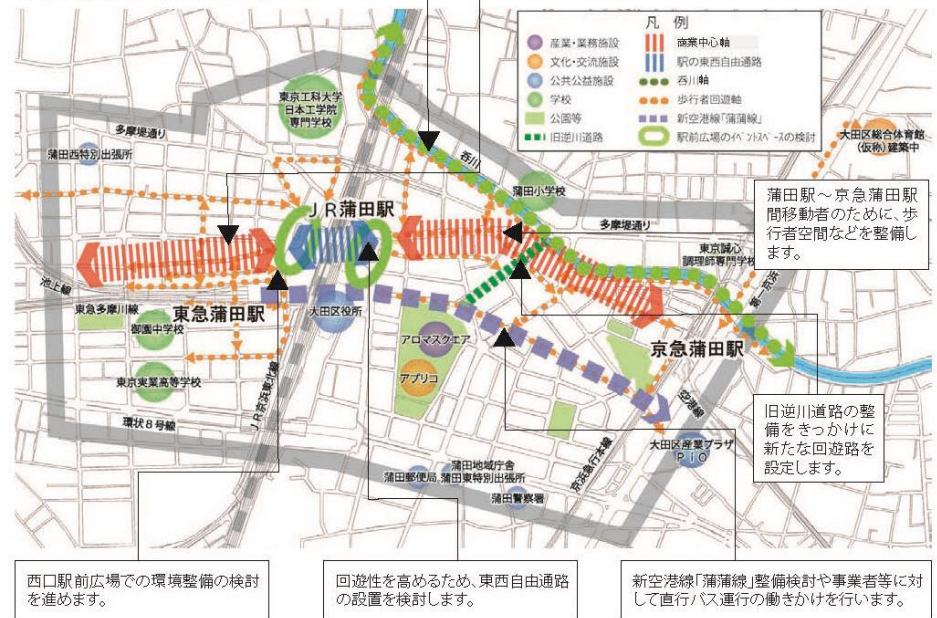
- 1-1 活気あふれる商店街づくり
- 1-2 商店街の環境づくり
- 2-1 人でにぎわう回遊路づくり
- 2-2 快適な歩行者空間の整備
- 3-1 新たな観光施策の展開
- 3-2 人や文化の交流促進
- 3-3 空港利用者サービスの向上

商業中心軸からにぎわいの
広がりをつくります。

- ・商店街の魅力やイベント情報の発信
- ・関係者との協力による商店の連続性の確保
- ・商店街のイメージや景観のルールづくりの検討
- ・省エネ設備の導入や緑化・清掃・見回り活動

呑川を魅力ある散策路として整備します。

基本方針 1. 商業・にぎわい・交流の創出イメージ



事例 1 : 「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」

(大田区、平成22年3月策定) ※出典：大田区HP

1-5 王子駅周辺まちづくりグランドデザインとりまとめのイメージ

基本的方針 **新タワーゾーン**

新タワーをシンボルとする防災・観光の広域拠点として、商業・業務機能を核に下町文化を発信する多機能複合市街地の形成を図る

将来像

- ・新タワーを中心とした観光都市すみのだの「顔」
- ・観光客の回遊を促す情報発信拠点
- ・多様な交通手段が利用できる交通ターミナル
- ・安全安心な防災の拠点

整備方針

◎Ⅰ街区ゾーン

- ・タワーを中心としたエンターテインメント、商業、宿泊、業務、観光案内、駐車場など各種機能の集積する複合型施設の整備
- ・業平橋駅前の整備
- ・日常的にはイベントやふれあいの場として利用できる立体防災広場の整備

◎Ⅱ街区ゾーン

- ・駅前立地を活かした複合型施設、沿道商業施設の整備

◎Ⅲ街区ゾーン

- ・交通結節点として利便性の高い押上駅前広場の整備
- ・他の交通機関と連携した駐輪場やレンタサイクル施設の整備

◎鉄道施設ゾーン

- ・南北の横断を可能とする通路の整備
- ・鉄道施設用地の機能更新に伴う、駅前立地を活かした複合型商業施設の整備

基本的方針 **水と緑ゾーン**

水辺拠点として、北十間川の河川空間を活かした魅力ある親水環境の創造を図る

将来像

- ・シンボル的な親水空間
- ・快適な歩行者空間
- ・水と緑の潤いある景観
- ・新たな水辺交通のネットワーク空間

整備方針

- ・歩行者デッキ、親水ステージ等の整備
- ・新タワーゾーン（防災広場）へつながる人道橋の整備
- ・橋梁（東武橋、京成橋）の修景整備と橋詰広場の整備
- ・北十間川の水質浄化機能の高度化
- ・船着場の整備
- ・橋門の改良

ゾーン別の整備方針

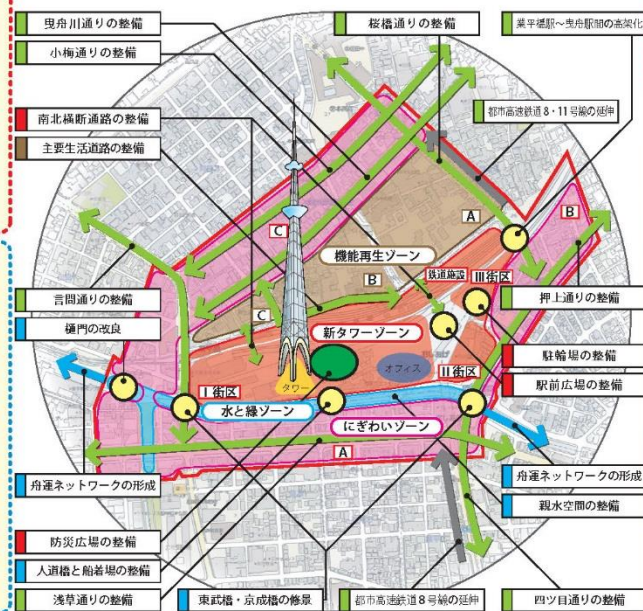
整備方針 **広域的な都市施設**

◎幹線道路

「浅草通り」「四ツ目通り」「押上通り」「桜橋通り」「小梅通り」「曳舟川通り」「言問通り」の整備（拡幅、交差点改良、ユニバーサルデザイン化）

◎交通機関

- ・押上駅と業平橋駅の接続改善
- ・業平橋駅～曳舟駅間の高架化
- ・都市高速鉄道8・11号線延伸の推進
- ・バス路線の充実
- ・循環ミニバス、舟運などの新たな交通機能の検討



基本的方針 **にぎわいゾーン**

既存商店街の活性化により、連続性と賑わいのある沿道商業複合市街地形成を図る。あわせて不燃化を促進し、延焼遮断機能や避難路の機能の向上を図る。

将来像

- ・賑わいのある商店街
- ・回遊を誘発する安全で快適な歩行者空間
- ・地域の特色である下町情緒を活かした良好な街並み

整備方針

◎にぎわいゾーンA

- ・浅草、吾妻橋と連携した観光交流に資する商業、業務施設の集積を図る

◎にぎわいゾーンB

- ・駅前立地を活かした生活利便に資する商業施設の集積を図る

◎にぎわいゾーンC

- ・地域の生活利便に資する商業施設とファミリー向け住宅の集積を図る

基本的方針 **機能再生ゾーン**

災害に強いまちづくりを推進するとともに、下町情緒を活かしながら日常生活空間を再生し、良好な環境を確保した複合市街地の形成を図る

将来像

- ・日常生活空間でありながら観光客をもてなすまち
- ・生活者にとって便利な施設が高度に集積した生活支援拠点
- ・安全安心で災害に強いまち

整備方針

◎機能再生ゾーンA

- ・未整備の社宅跡地における業務施設等の整備
- ・周辺環境と調和した施設（商業、住宅等）の整備

◎機能再生ゾーンB

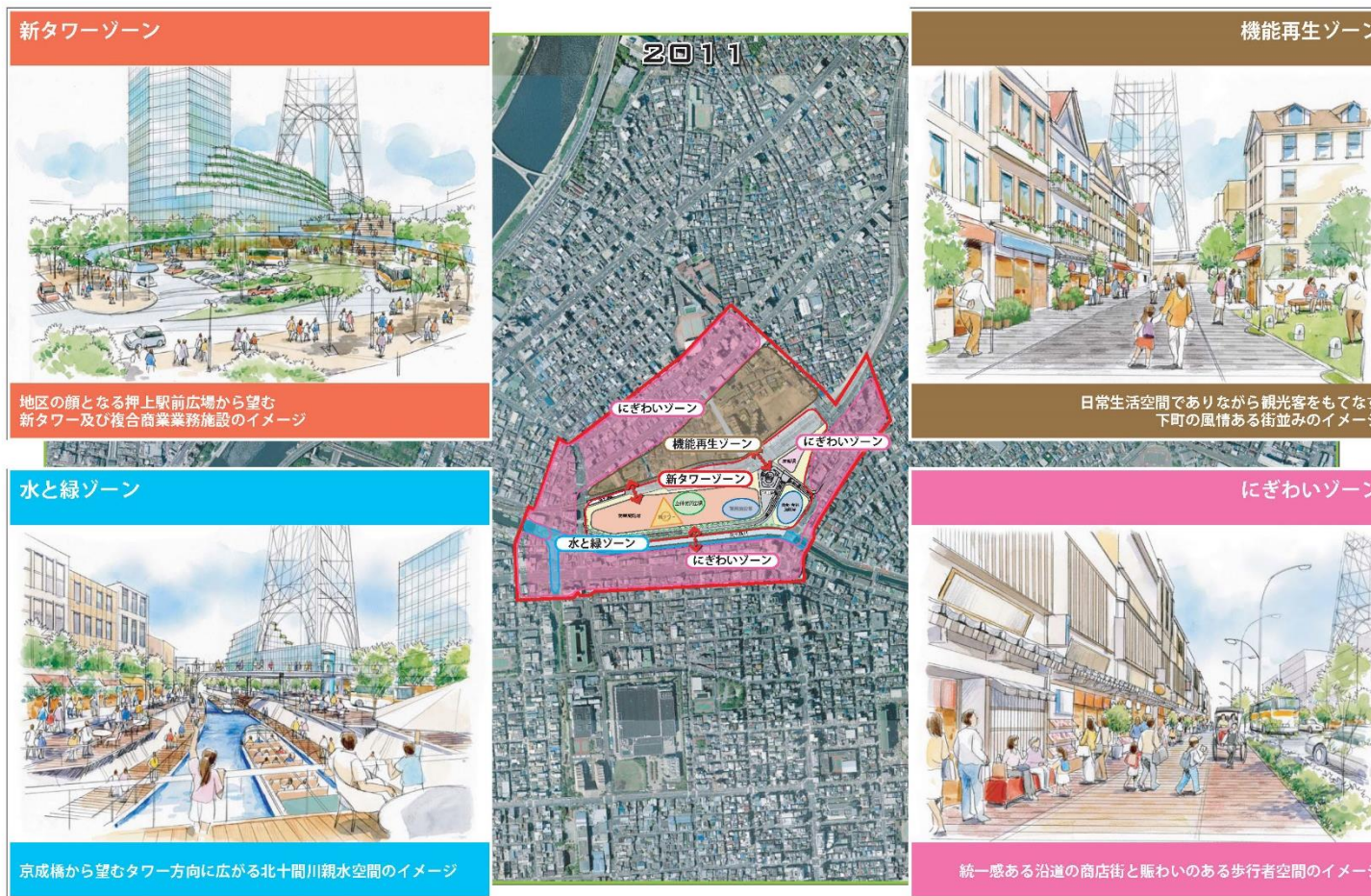
- ・周辺環境に調和した共同化や再開発事業等による商業、住宅等の整備
- ・主要生活道路の整備、建物の不燃化促進による防災性の向上

◎機能再生ゾーンC

- ・住宅の更新時期に合わせて、周辺環境と調和した施設（商業、住宅等）の整備

事例2：「押上・業平橋地区まちづくりグランドデザイン」 （墨田区、平成18年9月策定）※出典：墨田区HP

1-5 王子駅周辺まちづくりグランドデザインとりまとめのイメージ



事例2：「押上・業平橋地区まちづくりグランドデザイン」
(墨田区、平成18年9月策定) ※出典：墨田区HP

1-5 王子駅周辺まちづくりグランドデザインとりまとめのイメージ

コンセプト

「楽しく暮らし、気軽に訪れることができる
芸術・文化・生活のステージ」

- ・東京の表玄関として、様々な出会いと交流を演出するまち
- ・品川区の商業・文化の中心として、様々な活動の舞台をバランスよく提供するまち
- ・普段着のまま出かけられるまち
- ・人と環境に配慮した未来につづくまち

分野別の まちづくり 方向性

【まちづくりの方向性】

土地利用

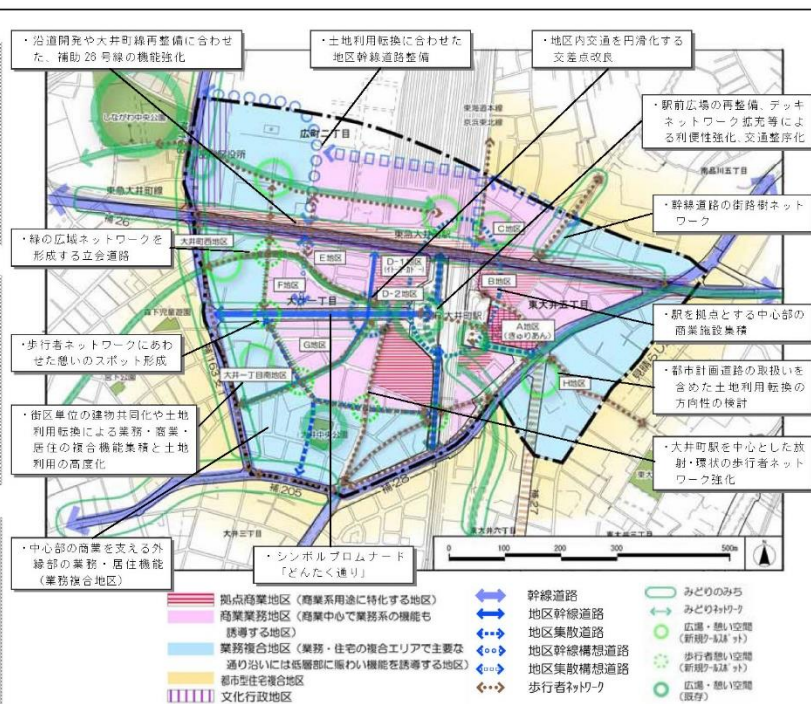
- ・まちに人を呼び込み滞在性を高める、文化・交流・アミューズメント・魅力ある商業機能の導入
- ・駅前の大規模商業店舗と既存商店街の共存や、駅周辺での宿泊機能との一体的なまちづくり
- ・広域交通アクセスの利便性を活かし、業務機能の誘導と地区外縁部での業務集積エリア形成を促進
- ・再開発事業などによる街区単位の建物共同化や土地利用転換による機能更新
- ・商業拠点性を維持する地区外縁部の居住人口集積のための生活基盤づくり

都市基盤

- ・地区内交通を円滑化する体系的な道路網の形成と交差点の改良
- ・歩行者の滞留・集散空間を創出し、交通結節機能を強化する駅前広場の再整備
- ・地区外周の幹線道路を活かし地区内への通過交通の流入を抑制する交通システムの導入検討と、開発に合わせた良好な歩行者空間の形成
- ・大井プレイスやC地区の開発、東急大井町線再整備に合わせた、補助26号線の機能強化
- ・シンボルプロムナードとしての「どんたく通り」をはじめ、地区の回遊性を高める放射・環状の歩行者ネットワークの形成
- ・羽田空港と大井町をつなぐ24時間運行を行う交通ネットワークの形成

都市環境

- ・豊富な公共交通網と集約型の都市構造を生かし、自動車に頼らない歩行者中心のまちづくり
- ・幹線道路の街路樹の充実や立会道路の活用、遮熱性舗装等の推進
- ・開発にあわせた公園・緑地・広場の創出、官民一体となったポケットパーク等の整備
- ・沿道緑化や、窓辺の花・鉢植え等による視覚的に楽しめるみどり空間の形成
- ・省エネルギーの促進とクリーンエネルギーを積極的に活用するまちづくり
- ・景観に配慮した官民一体となったルール作り



将来像の実現に向けて、土地利用、都市基盤、都市環境の3つの視点から短期（5～10年＝シナリオ1）と長期（20年程度＝シナリオ2）の計画を設定

事例3：「大井町駅周辺地区まちづくり構想」
（品川区、平成23年策定）※出典：品川区HP

1-5 王子駅周辺まちづくりグランドデザインとりまとめのイメージ

将来像の実現に向けて ～土地利用～

〔現況と課題〕

- ・駅から徒歩圏内での居住人口が多く、地区の人口も増加している
- ・区役所や駅前の大規模店舗、多数の商店街の存在といった資源を有する商業地の特性を活かす
- ・都市計画道路整備が進み、東西広域連携や駅環状道路基盤が形成されつつある
- ・大井町駅では乗換え流動が多いため、駅からまちに人が出てくるような機能が必要となる
- ・羽田空港の拡張・24時間化や品川駅リニア発着といった広域アクセス性が向上する

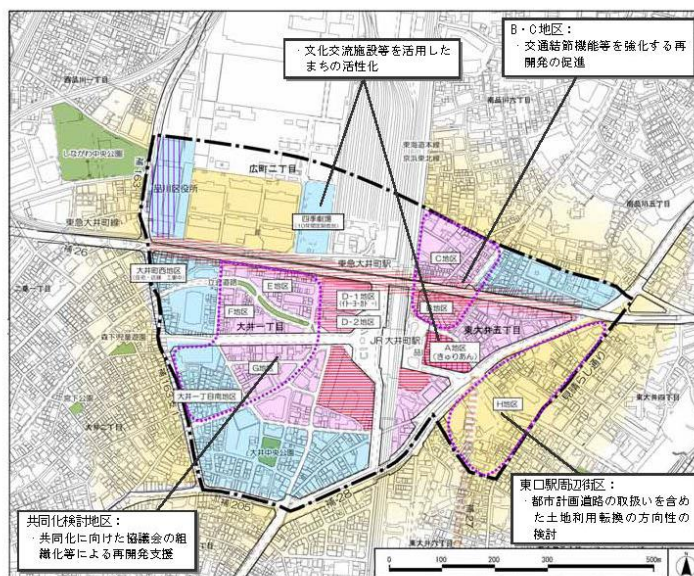
【方向性】

- ・まちに人を呼び込み滞在性を高める、文化・交流・アミューズメント・魅力ある商業機能の導入
- ・駅前の大規模商業店舗と既存商店街の共存や、駅周辺での宿泊機能との一体的なまちづくり
- ・広域交通アクセスの利便性を活かし、業務機能の誘導と地区外縁部での業務集積エリア形成を促進
- ・再開発事業などによる街区単位の建物共同化や土地利用転換による機能更新
- ・商業拠点性を維持する地区外縁部の居住人口集積のための生活基盤づくり

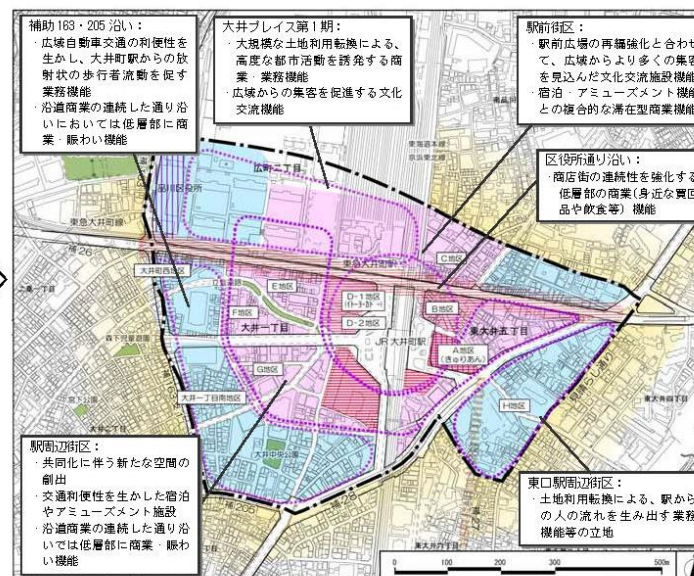
将来像の実現に向けたシナリオ

分野別の整備シナリオ

シナリオ1



シナリオ2



事例3：「大井町駅周辺地区まちづくり構想」 (品川区、平成23年策定) ※出典：品川区HP

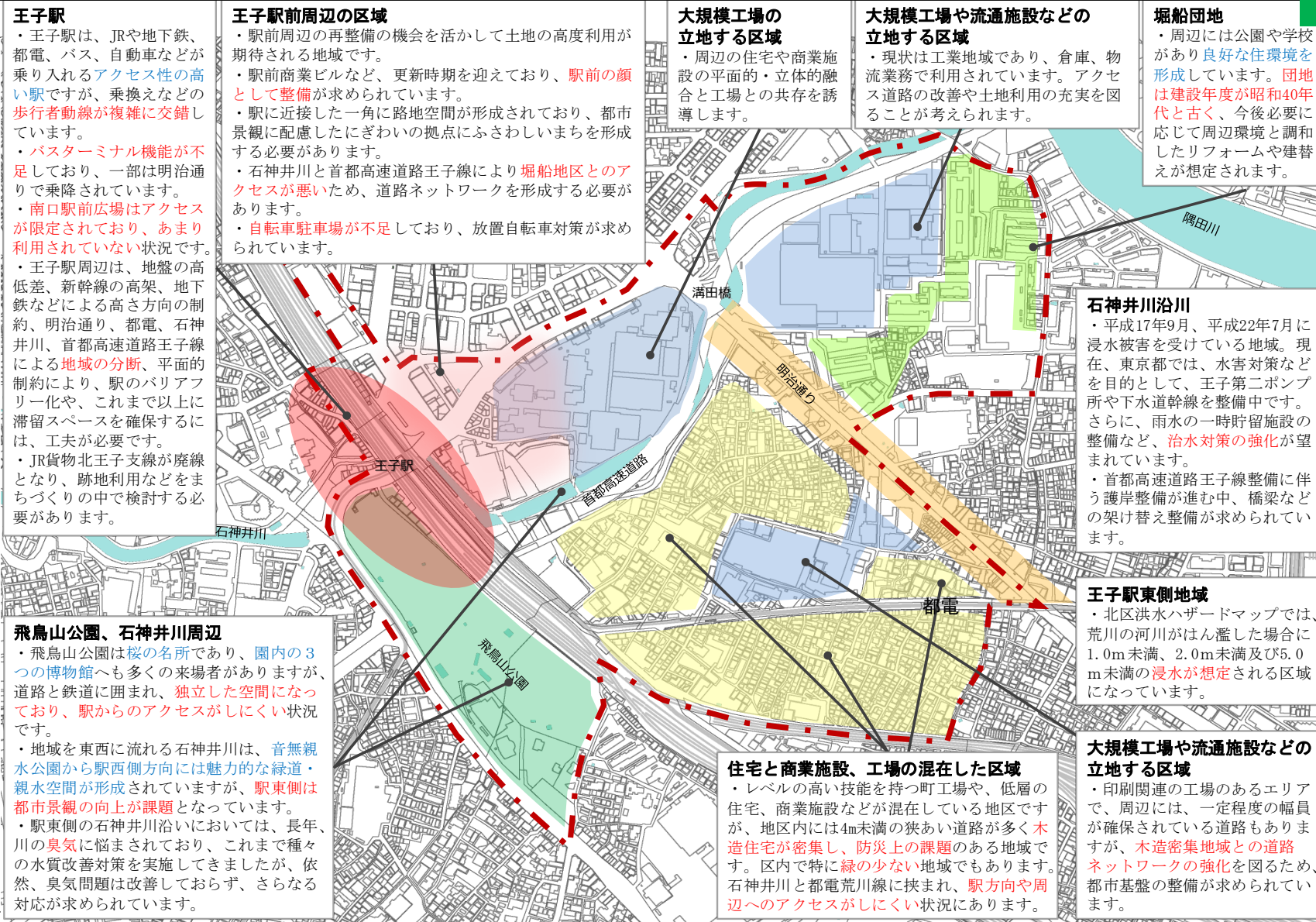
1-5 王子駅周辺まちづくりグランドデザインとりまとめのイメージ



中間まとめを参考に具体検討

検討会の役割

2. グランドデザインの検討

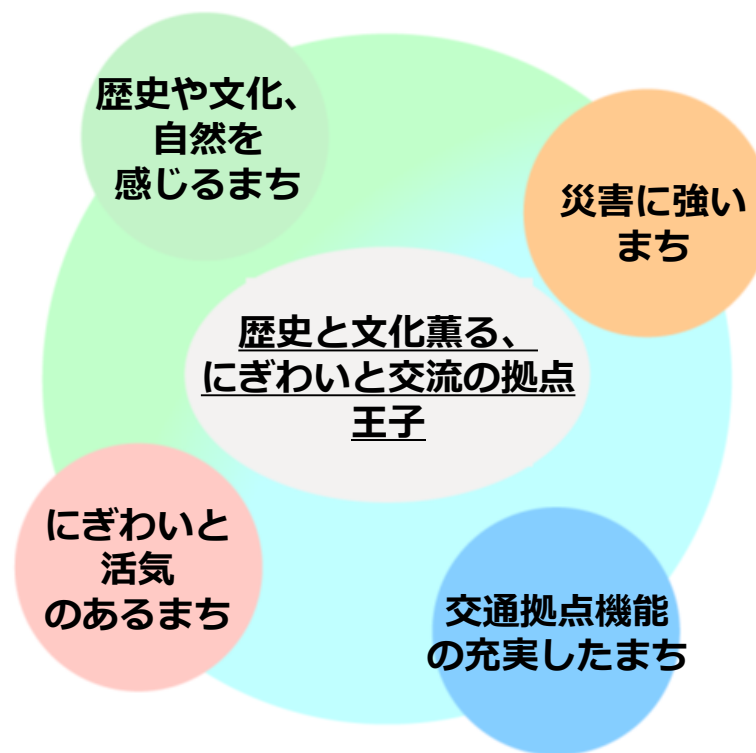


※青字：優位性 赤字：課題

コンセプト

～ 歴史と文化薫る、にぎわいと交流の拠点 王子 ～

歴史や文化、自然を区民が身近に感じ、災害に強い、商業・業務の経済活動、区民の交流の拠点となる王子のまちの形成をめざします。



○災害に強いまち

- ・「北区地域防災計画」（平成24年改定）における取組みの推進
- ・貯水施設の整備検討を東京都に求めていくなど地域の水害対策の推進
- ・堀船地区周辺に広がる木造住宅密集地域における避難経路・緊急車両確保など災害に強いまちづくりの推進

○歴史や文化、自然を感じるまち

- ・桜の名所として名高い飛鳥山など、古くから人々の憩いや行楽の地として親しまれてきた公園の利用促進
- ・近代からつづき現在も新しい技術や新製品の開発に取り組む洋紙業など、王子の発展を支えてきた産業の尊重
- ・現代に続くまちの歴史や文化、自然を、区民が身近に感じ、誇りに思えるまちづくりの推進

○にぎわいと活気のあるまち

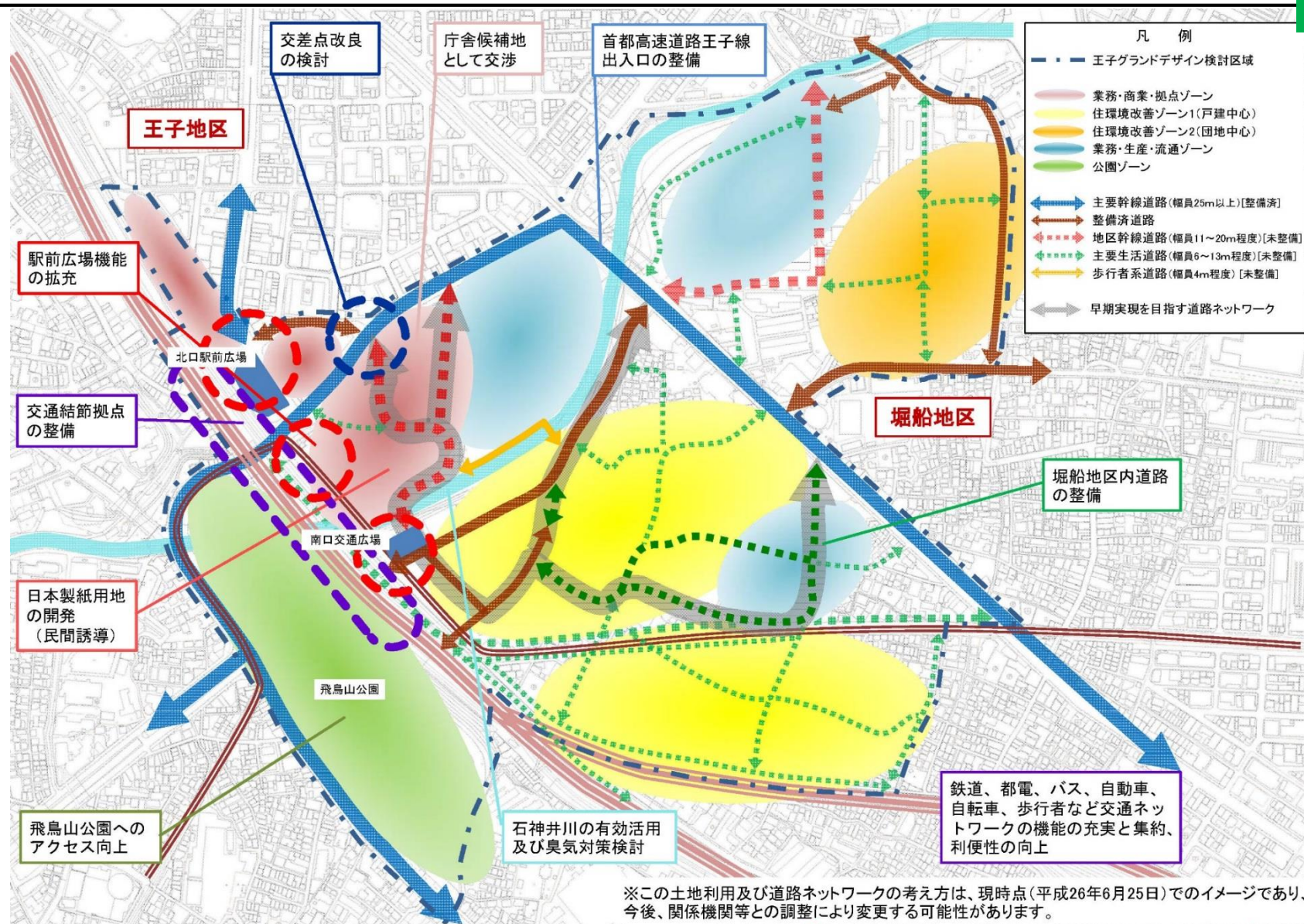
- ・北区の顔となる駅前にふさわしい商業の集積や土地利用の更なる誘導
- ・駅周辺の魅力を高めることで、多くの人々が訪れ集える活気とにぎわいのあるまちの形成の推進
- ・大学の誘致など、教育機関との連携協働を進めることによる産学公の交流拠点の創出

○交通拠点機能の充実したまち

- ・現在の複雑な交通ネットワークを効果的につなぐことによる交通拠点機能の強化等による利便性の向上
- ・王子駅周辺を中心に地域の生活に必要な都市機能（医療・商業等）を集約した生活拠点の形成
- ・首都高速道路中央環状王子線の王子南出入口の利便性を活かした、高速バスの利用促進

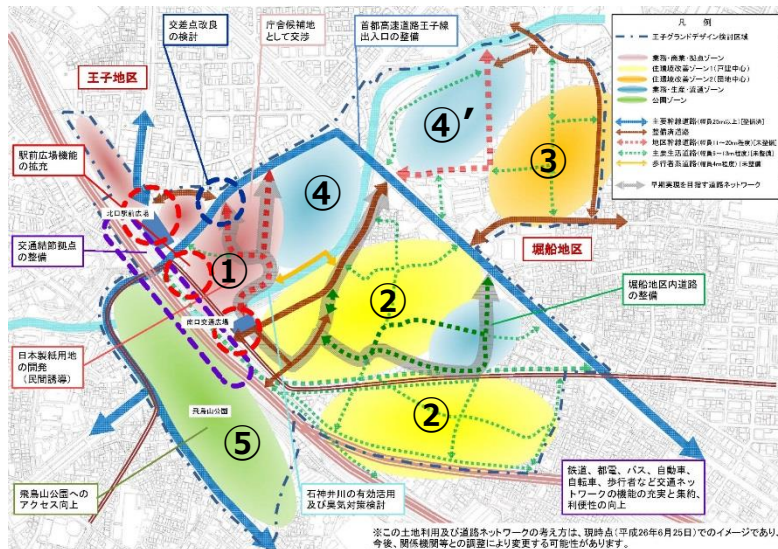
2-4 分野別の基本的な考え方

参考



2-4 分野別の基本的な考え方

土地利用の考え方



① 業務・商業・拠点ゾーン

王子駅前再整備や新庁舎建設(※)により、にぎわいと拠点性を高めていくゾーン

- ・ 業務や商業を中心とした更なる土地利用の集積と更新
- ・ 新庁舎建設を視野に拠点性の向上
- ・ 王子駅を中心とした交通拠点の充実強化や、飛鳥山公園を中心とした公園ゾーンなどと融合した効果的なまちづくり

※本検討会では、将来的に区が印刷局王子工場用地の一部を取得し、新庁舎を建設することを前提に検討を進めます。

② 住環境改善ゾーン1（低中層中心）

既存の住環境を改善し、向上をめざしていくゾーン

- ・ 道路などの基盤整備を進め、住環境の改善を図るなど防災上の安全性の向上による住みやすいまちづくり

③ 住環境改善ゾーン2（中高層中心）

団地建替えなどをきっかけに河川などの周辺環境と調和した、住環境向上をめざしていくゾーン

- ・ 団地の建替えなどにあわせて公園などの空地を効果的に配置し、石神井川など河川がある環境を活かしたまちづくり

④ 業務・生産・流通ゾーン

王子のまちを支えてきた工場との共存共栄を進めていくゾーン

④' 業務・生産・流通ゾーン

倉庫の機能集積を進めていくゾーン

- ・ 環境の維持改善の推進
- ・ 王子駅周辺の都市基盤整備とあわせた土地の高度利用の推進

⑤ 公園ゾーン

王子駅周辺の憩いの場として、今後も更に水とみどりを活かしていくゾーン

- ・ 区域のシンボルにふさわしい空間づくりを推進
- ・ 周辺住民や来訪者が利用しやすい動線の確保など

拠点地区として重点的に検討

基盤整備の考え方

① 交通結節機能の強化

- ・ 駅機能の充実や、**滞留スペースの確保**
- ・ 北口-中央口-南口広場間の役割分担や機能集約・拡充などを通じた**交通拠点の充実強化**
- ・ JR、東京メトロ、都電、バス間の**乗換え利便性**の向上
- ・ 立体的な歩車分離などによる駅と周辺地域との**歩行者回遊動線の確保**

② 道路ネットワークの形成

- ・ **堀船地区と王子駅周辺をむすぶ道路網の形成による広域ネットワークの強化**
- ・ 明治通りの混雑解消
- ・ 地区内道路の再整備による安全性・防災性の向上
- ・ 駅前再編および**新庁舎建設用地（※）への効果的なアクセス道整備等による明治通りの混雑緩和**

③ 歩行者ネットワークの形成

- ・ 高低差や、河川、交通量の多い幹線道路、鉄道線路等による王子駅、周辺市街地、飛鳥山公園間の**分断の解消**
- ・ 王子駅を中心として地域に展開する多様な**歩行者回遊動線の確保**
- ・ 王子駅前や新庁舎など、多くの歩行者の行き交いが想定される箇所への**滞留スペースの創出**

※本検討会では、将来的に区が印刷局王子工場用地の一部を取得し、新庁舎を建設することを前提に検討を進めます。

防災の考え方

① 震災に強いまちづくり

- 堀船地区や栄町地区など木造住宅密集地域における、建築物の耐震化・不燃化、生活道路の整備などによる安全で安心して暮らせるまちづくりの推進
- 非常時の避難や救援のための、明治通りなどの都市計画道路や生活道路網とのネットワークの充実
- 王子駅周辺では帰宅困難者対策の充実

② 水害に強いまちづくり

- 石神井川沿川における、集中豪雨時の洪水や冠水への対策としての、下水道の整備や雨水の一時貯留施設などの整備
- 王子駅東側地域は、荒川の氾濫によって浸水が想定される区域となっており、災害の被害軽減に向けた北区洪水ハザードマップの活用や、日頃から災害発生時に迅速的確な避難ができるよう防災情報の提供等の強化

にぎわいと活性化の考え方

①産学公連携による活性化への取り組み

- ・ 区民や民間事業者等、さまざまな活動主体とともににぎわいの創出に向けた組織づくりの推進

②集客をめざしたさまざまな活性化策の展開

- ・ 国内のみならず海外からの来街者を増やすため、地域と連携したイベントの実施や情報発信強化など、活性化策の展開
- ・ 東京北部の観光資源を連携する新たなルートの発掘や、道路、河川を活用したオープンカフェやイベントスペースなどの設置により、世代を超えて利用できる新しい快適な空間の創出

環境・景観の考え方

①低炭素化の促進

- 王子駅のさまざまな公共交通機関相互の利便性向上や歩行者、自動車それぞれが安全で快適な道路空間の整備など、環境負荷の少ないまちづくりの推進
- ヒートアイランド現象を緩和するため、建築設備からの人工排熱の低減や、建築物や敷地の緑化の促進など、官民協力した低炭素化への配慮

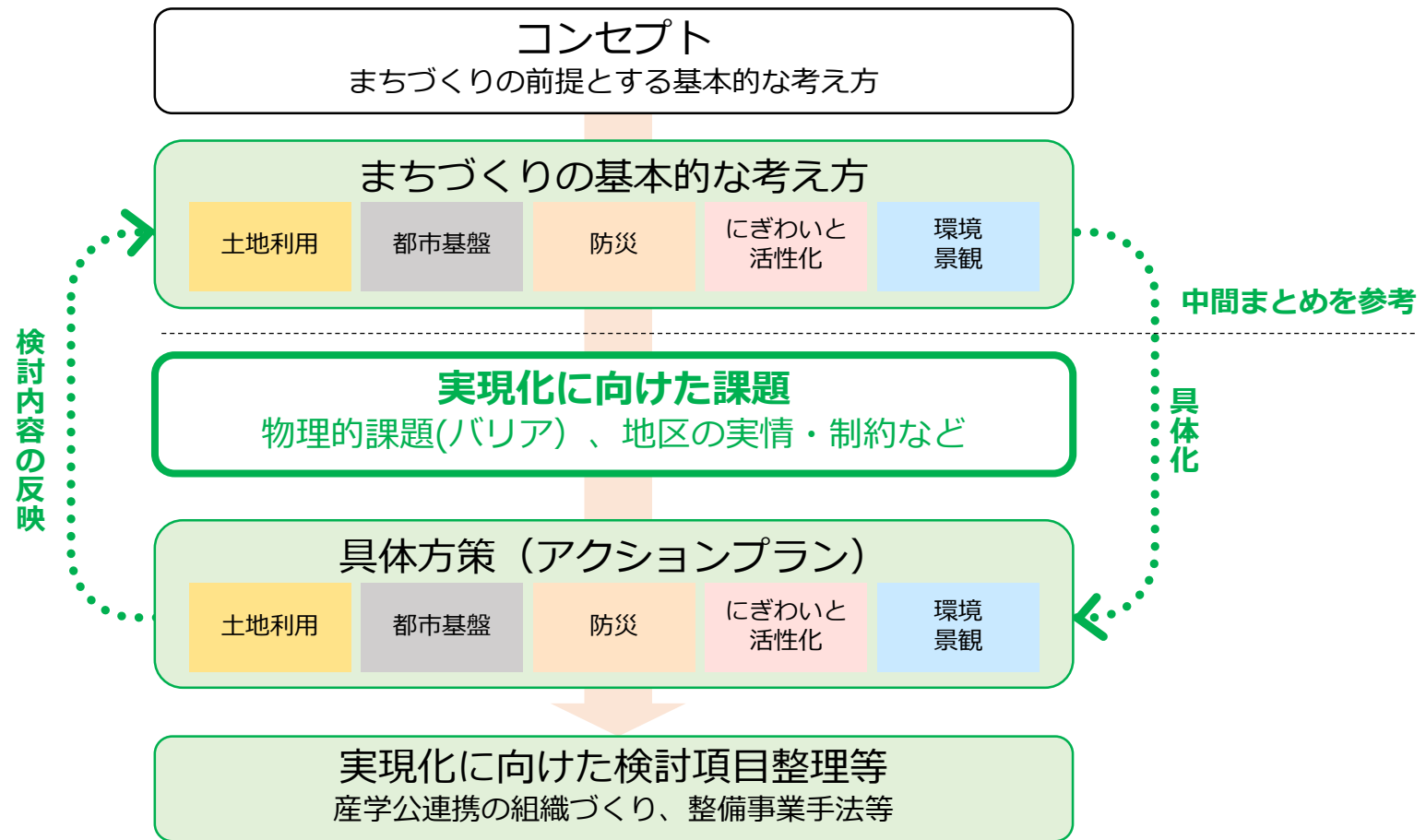
②石神井川的环境づくり

- 河川改修工事の進捗に合わせて遊歩道の整備や親水化など、豊かな河川空間づくりの検討
- 臭気対策の充実

③景観資源との調和を図る景観づくり

- 飛鳥山公園や石神井川、音無親水公園、崖線、都電などの景観資源とまちなみの調和
- 飛鳥山公園などと連続したみどりのネットワーク形成

2-5 「中間まとめ」を参考に議論を具体化



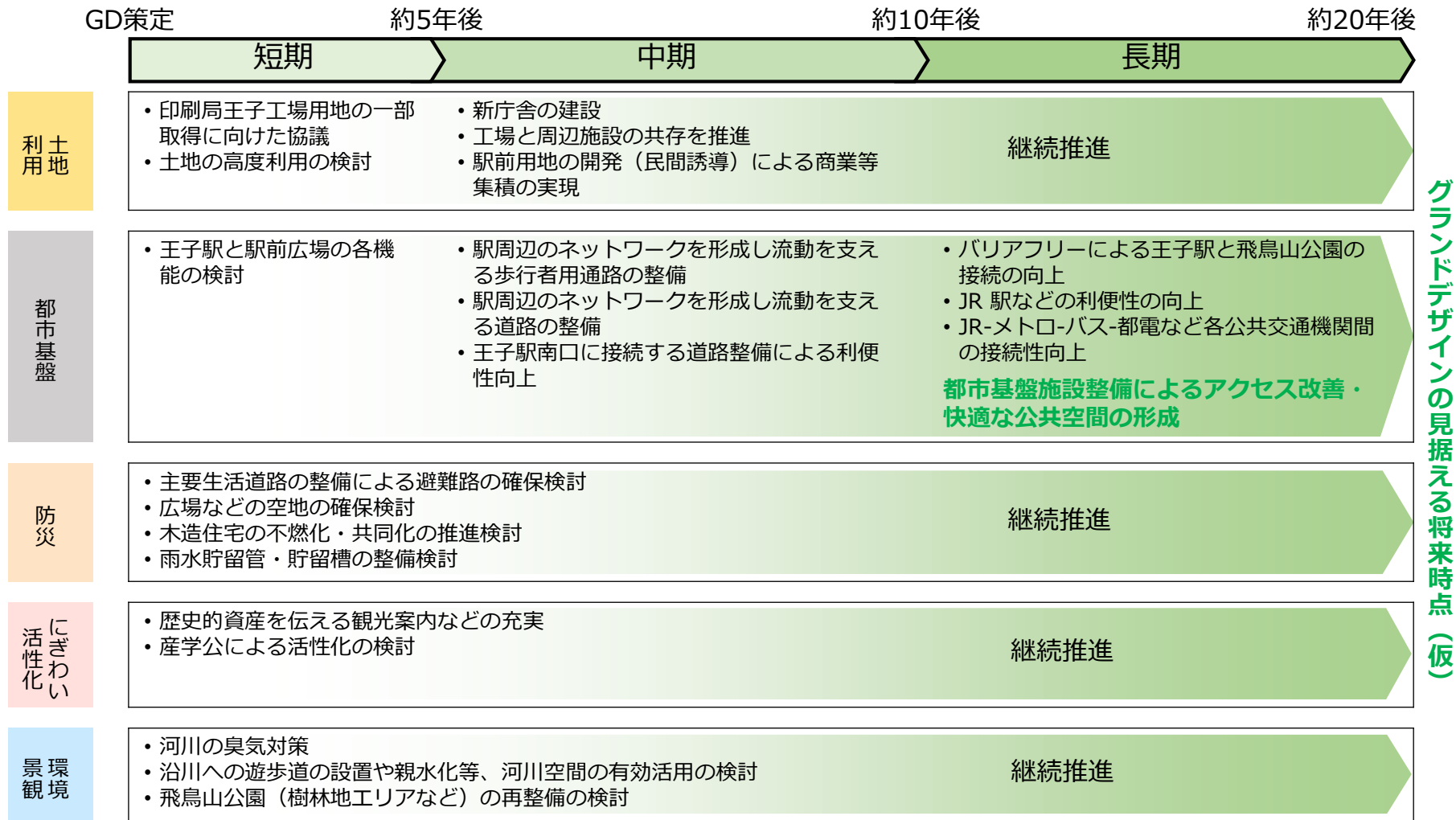
「基本的な考え方」に基づいてまちづくりを具体的に進めていくためには、特に土地利用や都市基盤整備に関わる**物理的な課題（バリア）**を関係者間で共有し、**実現化に向けた技術的な検討が必要**。

2-6 まちづくりスケジュール案

グランドデザインでは、策定から約20年後を見据えたまちづくりを想定

⇒20年後の2037年は、徳川吉宗が飛鳥山公園を江戸庶民に開放した年(1737年※)から300年

※1737(元文2)年：徳川8代目将軍吉宗より、飛鳥山が王子権現（王子神社）へ寄付され、庶民の遊興空間として発展するきっかけとなったとされている年。（研究者論文より）



グランドデザインの見据える将来時点（仮）

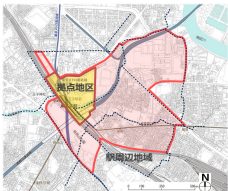
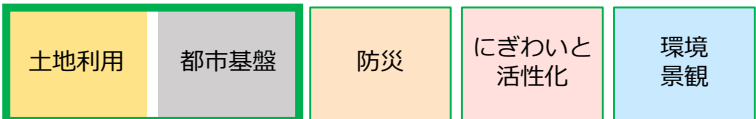
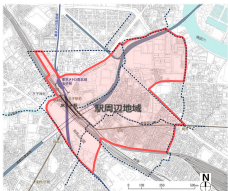
※上記スケジュール案は現時点での想定であり、進捗状況等に応じて適宜見直しを行っていくものとします。

3. 今後の検討の進め方

3-1 検討体制

地元まちづくりに関わる方々や、学識経験者、関係行政機関、公共交通事業者、地権者など、様々な関係者の協力のもと、『**検討会**』および『**検討部会（2部会）**』を設置

◆検討会および検討部会の役割など

名称		主な検討対象区域	主な検討分野	役割
検討会	王子駅周辺まちづくりグランドデザイン策定検討会 （以降検討会） 主な構成委員 各部会の代表者	駅周辺地域全体 	全てのテーマを検討 	部会での検討内容の共有、および方向性の調整など、 グランドデザインの策定に向けた地域全体に関わる検討
	都市基盤・開発検討部会 主な構成委員 事業者（大地権者、交通事業者等）	拠点地区 	土地利用と都市基盤を主に検討 	拠点地区整備に関する技術的な検討・議論など、 土地利用・都市基盤を軸に拠点地区整備の方向性を集中的に検討
検討部会	にぎわい・活性化検討部会 主な構成委員 地元まちづくりの関係者	駅周辺地域全体 	にぎわいと活性化、防災を主に検討 	王子駅周辺地域のにぎわい・活性化及び防災に関わる議論を中心に、 地域全体の将来像を幅広く検討

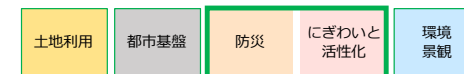
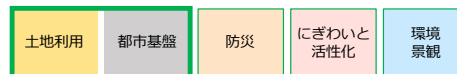
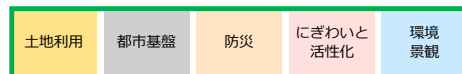
3-3 検討会・検討部会での検討テーマ

目次案

検討会

都市基盤・開発検討部会

にぎわい・活性化検討部会



第1章：はじめに

第2章：現況と課題

第3章：コンセプトと基本方針

第4章：
まちづくりの基本的な考え方

第5章：
具体方策（アクションプラン）

第6章：
実現に向けて

第1回検討会
【キックオフ】
GD策定の目的・とりまとめ
のイメージの確認、課題・ま
ちづくりの方向性、検討の進
め方等の共有

第2回検討会
【検討1】
分野別のまちづくりの基本
的な考え方の共有

第3回検討会
【検討2】
基本的な考え方のまちづく
りへの具体的な展開、とり
まとめの方向性の共有

第4回検討会
【とりまとめ】
GDとりまとめ内容の確認、
GD策定後の実施方策等の検討

とりまとめを見据え、各検討分野ごとに、
GD目次案に対応したテーマについて検討

検討テーマ・検討方向性等の提供

第1回都市基盤・開発検討部会
拠点地区整備に向けた優先
検討事項や方向性等の確認

第1回にぎわい・活性化検討部会
駅周辺地域におけるにぎわい・
活性化及び防災のあり方の検討

検討結果等の提供

検討テーマ・検討方向性等の提供

第2回都市基盤・開発検討部会
拠点地区整備の具体方策等
の検討

第2回にぎわい・活性化検討部会
駅周辺地域におけるにぎわい・活
性化及び防災の具体方策の検討

検討結果等の提供

検討テーマ・検討方向性等の提供

第3回都市基盤・開発検討部会
拠点地区整備のとりまとめ
方向性の検討

第3回にぎわい・活性化検討部会
駅周辺域のにぎわい・活性化及び
防災方針とりまとめ方向性の検討

検討結果等の提供

※下記検討テーマは現時点での想定であり、今後変更する可能性があります。